

ハイドロテクトカラーコート ECO-EX 中塗

<系統> 変性シリコン樹脂塗料(水系)

<特長> 1) 上塗用光触媒クリアを塗装することにより、超親水性と有機物分解性を発現し、極めて高い耐汚染性を有します。

2) 無機成分の多い樹脂を使用し塗膜を形成しているため、長期耐候性に優れています。

3) 日塗工標準色(E版)のうち5分艶:約380色、艶消し:約300色に対応が可能です。

<塗料性状>

項目	主剤	硬化剤
1 荷姿	16Kg セット(主剤 15.09Kg、硬化剤 0.91Kg) 4Kg セット(主剤 3.77Kg、硬化剤 0.23Kg) 1Kg セット(主剤 0.94Kg、硬化剤 0.06Kg)	
2 混合比	主剤/硬化剤=100/6	
3 色	日本塗料工業会色見本帳E版 標準色 5分艶:約380色、 艶消し:約300色に対応可	無色透明
4 光沢	60°グロス値<5分艶>30~65 <艶消し> 1~5	
5 比重	<5分艶>1.16 <艶消し>1.14	1.01
6 加熱残分	<5分艶>38% <艶消し>39%	
7 引火点	なし	120°C
8 消防法による危険物区分	—	第4類第3石類
9 有機溶剤区分	—	該当しない
10 有害性情報	<ul style="list-style-type: none"> ・ジエチレングリコールモノブチルエーテル ・N、N-ジメチルエタノールアミン ・N、N-ジメチルホルムアミド ・エチレングリコールモノブチルエーテル 	2、2、4-トリメチル-1、3-ペンタンジオールモノイソブチレート

<塗装基準>

(1) 開缶後、主剤と硬化剤を混合し、十分に攪拌する。

(2) 希釈剤 希釈なし

(3) 標準使用量と膜厚

塗装方法	ハケ・ローラー	エアスプレー	エアレス
希釈率	0%	0%	0%
標準使用量	0.08~0.1Kg/m ² /回 ×2回	0.12~0.18Kg/m ² /回 ×2回	0.25~0.45Kg/m ² /回

※標準使用量は、平滑面への塗布を想定しており、被塗物の形状、素地の状態、気象条件、希釈率により幅を生じます。

<乾燥時間・塗装間隔・可使時間>

		5°C	20°C	35°C
指触乾燥		1 時間	15 分	10 分
半硬化乾燥		2 時間	60 分	40 分
中塗/中塗の 塗装間隔	最短	5 時間	3 時間	3 時間
	最長	12 日	12 日	12 日
可使時間		8 時間	4 時間	4 時間

<適用下塗>

セメント用シーラー:SR50-W、SR10、SR11

複層仕上材・主材:TB10、DC10

金属用プライマー:MP51-W、MP52

既存塗膜:RP11、RP16-W

<取り扱い注意事項>

<ハイドロテクトカラーコート ECO-EX 上塗>

- ・標準使用量を超えると液ダレ及び白化を生じ易くなりますので、ローラー塗装の際は、扱き板を使って余分な塗料をローラーから除去し、ローラーから液ダレの起こらない状態にして塗装してください。
- ・吹き付け塗装の際は、専用スプレーガンか推奨スプレーガンを使用してください。
- ・ブルーの着色は、塗膜の乾燥に伴い消失しますが、完全硬化する前に雨に当たるとブルー色に再発色することがあります。

<ハイドロテクトカラーコート ECO-EX 中塗>

- ・多湿な時期や冬季には乾燥が遅くなるため、インターバル間隔が短いとクラックが発生する場合があります。
- ・主剤と硬化剤を混合する場合は、攪拌機を用いて主剤を攪拌しながら、硬化剤を少しずつ添加して下さい。一度に硬化剤を投入すると主剤と硬化剤が混ざり難くなり混合に時間を要す場合があります。
- ・混合後は、可使時間以内に使用し、可使時間以上を経過した塗料は適切な処理方法で廃棄して下さい。

<その他>

- ・施工当日に降雨・降雪・結露が予想される時は施工を避けて下さい。
- ・気温5℃以下や湿度85%以上の場合は、原則的に施工を避けて下さい。
- ・使用環境条件によって藻の発生する場合があります。
- ・直射日光、高温(40℃以上)、高湿、腐食、凍結(0℃以下)等の恐れのないところに保管してください。
- ・シーリング材の上に塗布すると、躯体の伸縮により塗膜のひび割れが発生する場合があります。

<安全衛生上の注意>

- 1.作業前
 - ・本品は業者専用品ですので塗料としての用途以外に使用しないで下さい。
 - ・指定された以外の材料と混合しないで下さい。
- 2.作業場所
 - ・塗装中、乾燥中ともに換気をよくし、その後も塗料の臭気がなくなるまでは、時々換気をして下さい。
 - ・居住者、隣家、車両等へ塗料ミスト・臭い・蒸気等が飛散しない塗装方法を選択すると共に充分な養生を行なって下さい。
- 3.作業時
 - ・取り扱い中はできるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて防塵マスクをつけ、さらに保護めがね・頭巾・保護手袋・長袖の作業着・襟巻きタオル・前掛等を着用して下さい。
 - ・衣服等に付着した場合は、直ちにその汚れをよく落として下さい。
 - ・容器はみだりに転倒させ、落下させ、衝撃を加え、また引きずる等の粗暴な行為をしないで下さい。